

海外研修旅行（イタリア）の報告（第4報）

大塚三雄・林 文明・中川 実
長谷川達也・出口達也

1. はじめに

本学では、人材育成のため毎年夏休み期間中に希望者を募り海外研修旅行を実施している。研修旅行先は、2000年より本学の提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校が所在するイタリアとして行われており、今回で5回目である。

本稿では、2004年に行われたイタリア研修旅行について報告する。

2. 研修旅程

イタリア研修旅行は、提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修及びフェラーリ工場の見学を中心とした自動車に関わる研修と、異国文化に関わる研修をおりまぜながら旅程を検討し立案した。研修旅行の日程は、2004年8月30日（月）～9月6日（月）の6泊8日に決定し旅程を2月から調整し、更に研修の中心となる日程を4月から調整してきたので、途中大幅な変更もなく実施できた。その研修内容は、表1に示すように、イタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修をはじめとしてフェラーリ社工場及び二輪（バイク）メーカーであるドカティ社工場の見学、更にフェラーリ博物館、ドカティ博物館、マラネロ・ロッソ・コレクション（フェラーリとアバルトの博物館）の見学、自由研修

表1 イタリア研修旅行実施旅程

日時	移動及び宿泊	食事	旅程内容
8月30日 （月）	名古屋～ ヴェネツィア		名古屋空港集合（8:00） 名古屋空港よりフルトハンザ航空にて出発（10:00）～フランクフルト着（15:00）、フランクフルト発（16:45）～ヴェネツィア空港着（18:00）、ホテルへ移動（16:50～19:20） 夕食（20:00～21:30）
8月31日 （火）	ヴェネツィア泊	朝 昼	朝食（6:30～）、集合（7:20）、ホテル出発（7:30～8:15） 市内観光（ドゥカレ宮殿、サンマルコ寺院、リアトル橋、濯息の橋、サンマルコ広場）（8:30～11:00） 自由研修（11:00～12:15）両替30分含む 昼食（12:30～13:25） ゴンドラ遊覧（13:40～14:25） 自由研修（14:25～20:15）、点呼（20:15） ホテルへ移動（20:30～21:15）
9月1日 （水）	ヴェネツィア～ イモラ	朝 昼	朝食（7:00～）、集合（7:45）、ホテル出発（8:00～11:00） エンツォ・エ・ディエノ・サーキット付近散策（11:00～12:00） 昼食（12:30～14:00）
2日（木）	～リミニ ～サンマリノ ～リミニ ～リミニ泊	朝 昼 夕	着後、市内観光（アウグスト門、マラテステアノ寺院、テイペリオの橋など）（15:10～16:40） 着後、マラネロ・ロッソ・コレクション見学（17:10～18:45） ホテルへ移動（18:50～19:30）、夕食（20:00～21:15）
3日（金）	リミニ～ サンマリノ ～マラネロ マラネロ泊	朝 昼 夕	朝食（7:30～）、集合（8:30）、ホテル出発（8:40～9:30） 着後、市内観光（第一の塔ロッカ、第二の塔チェスタ、共和国宮殿、サント教会）（9:30～10:30） 自由研修（10:30～11:45）、昼食（12:00～13:00） マラネロへ移動（13:20～16:30） 着後、フェラーリ博物館見学及びフェラーリ社付近散策（16:30～18:00）、点呼（18:00） 夕食（18:30～20:30）、ホテルへ移動（20:40～21:00）
4日（土）	マラネロ マラネロ泊	朝 昼 夕	朝食（7:00～）、集合（9:15）、ホテル出発（9:20～9:30） フェラーリ工業専門学校研修（9:30～11:20） フェラーリ社付近散策（11:20～13:00）、点呼（13:00） フェラーリ社食堂にて昼食（13:10～14:30） ボローニャへ移動（14:35～15:30） 着後、ドカティ社工場及び博物館見学（15:40～17:30） モデナへ移動（17:35～18:15）、自由研修（18:20～19:15） 夕食（20:00～22:30）、ホテルへ移動（22:35～23:00）
5日（日）	～ミラノ ミラノ泊	朝 昼	朝食（7:00～）、集合（9:15）、ホテル出発（9:30～9:45） フェラーリ社工場見学（10:00～11:30） 昼食（12:00～13:00） ミラノへ移動（13:10～15:30） ミラノ市内観光（ドゥオーモ）（16:30～17:00） 自由研修（17:15～20:45）、点呼（20:45） ホテルへ移動（21:00～21:10）、点呼（21:15）
6日（月）	ミラノ 名古屋	朝	朝食（6:45～）、集合（7:20）、ホテル出発（7:30～7:50） ミラノ空港よりフルトハンザ航空にて出発（10:35）～フランクフルト発（11:55）、フランクフルト発（13:55）～名古屋空港着（8:35）、着後解散

でフェラーリ専門のカロツェリア（整備工場）及びフェラーリ社のテストコース等の見学，また異国文化に関わる研修では，ヴェネツィア，リミニ，サンマリノ共和国，ミラノを周った。

3. 参加募集

研修旅行の募集定員40名を確保するため募集は，研修旅行に対する保護者の理解を早めに得るため，3月下旬に新入生及び新2年生の保護者宛に案内を郵送した。更に，入学式終了後に新入生及びその保護者に参加募集案内を行った。新2年生には，4月8日の交通安全教室終了後，体育館内にて参加募集案内を行った。また，全学生を対象に海外研修旅行に関わる意識調査アンケートを4月8，9日のクラス別ガイダンス内に実施し，興味を示す学生の把握を行った。学内では，各教室及び主要建物，受付窓口，相談窓口にポスターを貼り，研修旅行のアピールをしながら4月27，28日に研修旅行案内説明会を行い，参加申込書記入者は53名に達した。申込金振込者数も5月下旬には定員の40名となった。その後，参加予定者を対象にパスポート等研修旅行に関わる具体的な内容の説明会を6月3日，7月9日，23日の3回行った。また，保護者にも確認して頂くため研修旅行ガイドブック（本学作成）及び最終案内を8月2日に郵送した。しかし，例年あまり無かった申込書記入者のキャンセルが15名に及び，その内9名は申込金振込後のキャンセルで，6月の4名をはじめとして7月2日に1名，21日に2名，31日に1名，8月30日に1名と7月下旬になってのキャンセルが4件もあった為，追加参加者の調整がかなり難航した。今後，キャンセル者に対する対応（申込金の増額等）を考えていかなければいけないと感じた。また，今年度は，海外研修旅行が行われるようになってから初めての当日キャンセルが1名出てしまった（本人の出発日間違え）。今後このようなことにならないように参加者の対応（出発前日の電話連絡等）を徹底していかなければならないと考える。研修旅行最終参加者は，1年生33名，2年生5名で合計38名であった。

4. 研修旅行風景

研修旅行1日目は，午前8時に名古屋空港に集合し結団式を行った後，名古屋空港からフランクフルトへ向けて午前10時00分（日本時間）に飛び立ち約12時間の長いフライトを体験し，更にフランクフルトを経由しヴェネツィア・マルコポーロ空港に着いたのは，現地時間の午後6時00分（日本との時差は7時間）であった。それから，バスでヴェネツィア市内のメストレ地区にある宿泊ホテルに30分かけて移動し，イタリアで初の夕食を味わった。

2日目は，車では入ることができないヴェネツィア本島に水上バス（船）で移動し，市内観光でドゥッケーレ宮殿やサンマルコ寺院をはじめとして，サンマルコ広場，溜息の橋，ガラス細工工房などを見学した。昼食後，水の都ヴェネツィアを遊覧するゴンドラ（船）に乗船した。その後，自由研修に入り車もバイクも自転車も走っていないという，他国では絶対に味わえないような雰囲気，夜までたっぷり肌で感じた。リアルト橋前での様子を写真1に示す。



写真1



写真2

3日目は、ヴェネツィアからイモラへバスで3時間かけて移動し、F1サン・マリノ・グランプリが行われるエンツォ・エ・ディーノ・サーキット（イモラ・サーキット）に立ち寄り、休憩も兼ねてその周辺を散策した。サーキット入口での集合写真を写真2に示す。また、この場所は、1994年にアイルトン・セナがレース事故によって亡くなったところでもあるため、サーキットに隣接している公園内にはアイルトン・セナを偲んで建てられたモニュメントがあった。なかなか、一般のツアーでは立ち寄ることがない場所なので、学生も思い思いにモニュメントをバックに写真を撮っていた。その様子を写真3に示す。昼食後、リミニに移動し、市内観光でアウグスト門、マラテスティアーノ寺院、ティベリオの橋などを見学した。その後、サン・マリノ共和国の麓まで移動し、フェラーリとアバルトの博物館として創設されたマラネロ・ロッソ・コレクションを見学した。ここにはフェラーリの歴史を物語るコレクションとアバルトが展示されているので、車好きの学生には、とても興味深いコレクショ



写真3



写真4



写真5

ンだった。その様子を写真4に示す。

4日目は、リミニの宿泊ホテルより30分かけて、バスでアドリア海を望む標高739mのテイターノ山の山頂に位置している世界で五番目に小さな国サン・マリノ共和国に移動し、市内観光で第一の塔ロッカ、第二の塔チェスタ、共和国宮殿、サント教会を見学した。また、少々天候が悪かったが、山頂から望む景色が絶景だったので、異国の雰囲気をも十分に満喫できた。その様子を写真5に示す。昼食後、フェラーリの拠点となるマラネロに向けて3時間のバスの移動となった。到着時、運良くシュー・マッハがフィオラノ・サーキット（フェラーリ社テストコース）で爆音をなびかせながらテスト走行を行っていた為、観戦スポット近くにバスを着けテスト走行を見学することができたので、学生諸君はかなり満足して見ていた。その様子を写真6に示す。その後、フェラーリ博物館を含め、その周辺の自由研修散策でザナシー（フェラーリ専門の整備工場）及びトニーオート（整備工場）等、各自思い思いの場所を自由に見学した。夕食は、国立フェラーリ工業専門学校の校長先生をはじめとしてエミリア先生、フィリッポ先生を迎えて伝統モデナ料理を食べた。

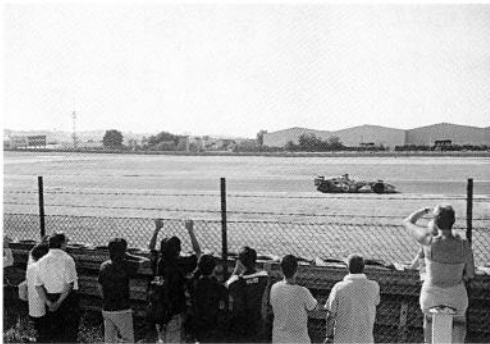


写真6



写真7

5日目は、国立フェラーリ工業専門学校で研修が行われた。その中でフェラーリ校の学生との交流があったので、その様子を写真7に示す。研修終了後、フェラーリ本社食堂での昼食体験をして、バイクで有名なドカティ社が位置するボローニャまでバスで1時間の移動となった。到着後、工場及び博物館の見学をしたが、バイクに興味がある学生にとっては、かなり魅力的な場所だったのか、時間が足りないという意見もいた。その様子を写真8に示す。

6日目は、自動車に関わる研修のメインでもあるフェラーリ社の工場を見学した。工場は、一般人は許可無しでは絶対入る事の出来ない場所なので、そこに入り見学できたことでかなり学生は満足していた。フェラーリ社通用門での様子を写真9に示す。昼食後、ミラノに向けバスで2時間30分かけて移動し、市内観光でドゥオーモ（教会）、ヴィットリオ・エマヌエレ2世ギャラリーの見学をした。観光後、自由研修になったが、同じ日にフェラーリ社の工場見学が重なり



写真8



写真9

異文化を肌で感じ取る時間が少なくなった為、学生も少し不満そうだった。

7日目は、帰路に着くためミラノのホテルを午前7時30分に出発し、ミラノ・リナーテ空港よりフランクフルト経由で名古屋に向かい、8日目の朝、全員無事に名古屋空港に到着し、それぞれの家路に着いた。

5. アンケート結果と考察

アンケートは、研修旅行参加者を対象として、旅程最終日に研修旅行全般、宿泊ホテル、各研修先等についての感想を5段階評価（5. とても良かった, 4. 良かった, 3. 普通, 2. やや不満, 1. 不満）してもらったものである。その結果を表2に示す。

このアンケート結果から、自動車に関する研修の中でフェラーリ社の工場見学は76%、フェラーリ博物館は82%、マラネロ・ロッソ・コレクションの見学は74%の学生が満足していること

表2 アンケート結果

5.とても良かった 4.良かった 3.普通 2.やや不満 1.不満

	質問項目	5	率	4	率	5.4率	3	率	2	率	1	率	合計
1	イタリア旅行は全般	25	66%	9	24%	89%	1	3%	2	5%	1	3%	38
2	(1)ヴェネツィア (ラグナスイート)	32	84%	3	8%	92%	3	8%	0	0%	0	0%	38
	(2)リミニ (ベルビュー)	3	8%	6	16%	24%	8	21%	13	34%	8	21%	38
	(3)マラネロ (ドムス)	4	11%	9	24%	34%	13	34%	4	11%	8	21%	38
	(4)ミラノ (ガレス)	9	24%	16	42%	66%	9	24%	4	11%	0	0%	38
3	フェラーリ社工場見学	19	50%	10	26%	76%	7	18%	2	5%	0	0%	38
4	フェラーリ博物館見学	16	42%	15	39%	82%	5	13%	2	5%	0	0%	38
5	フェラーリ校の研修	13	34%	8	21%	55%	9	24%	8	21%	0	0%	38
6	フェラーリ工場付近の散策	15	39%	8	21%	61%	11	29%	3	8%	1	3%	38
7	フェラーリ社食堂での食事体験	11	29%	12	32%	61%	7	18%	3	8%	5	13%	38
8	ドカティ社工場見学	16	42%	4	11%	53%	13	34%	2	5%	3	8%	38
9	ドカティ博物館見学	10	26%	12	32%	58%	12	32%	1	3%	3	8%	38
10	マラネロ・ロッソ・コレクション見学	14	37%	14	37%	74%	8	21%	2	5%	0	0%	38
11	ヴェネツィア市内観光	23	61%	8	21%	82%	3	8%	2	5%	2	5%	38
12	サンマリノ・リミニ市内観光	13	34%	11	29%	63%	8	21%	2	5%	4	11%	38
13	ミラノ市内観光	9	24%	12	32%	55%	7	18%	5	13%	5	13%	38
14	移動に利用したバス	11	29%	13	34%	63%	10	26%	3	8%	1	3%	38

がわかる。これは、普段見ることができない車を数多く見ることができたことによりかなり高い数値を示したと考える。また、異文化に関する研修先もヴェネツィアについては82%と多くの学生が満足している。しかし、バイクメーカーのドカティ社の工場及び博物館の見学については、バイクに興味があるかないかによってかなり満足度が変化すると感じた。研修旅行全般においては、89%と満足してくれた学生が90%を切ってしまったが、今年度、研修旅行に参加した学生は両極端な者が例年より多く、フェラーリだけの旅程でいいという者がいたり、自動車より異文化に関わる研修を重視する者がいたり、そのことが影響して顕著に現れたと考える。このような結果から、どの学生にも研修旅行中、何箇所かは満足できる場所がないと納得してもらえないので、旅程はやはり今まで通り自動車に関わる研修と異国文化に関わる研修をおりませないと、すべての学生には対応できないと考える。また、学生もゆとりを持って研修ができるよう自由研修時間を少しでも長く取れるといいと感じた。今後も、研修旅行に参加した学生が更なる魅力を感じられるようにするために、研修旅程を立案する段階で、過去のアンケート結果や報告書を有効に活用し検討することが重要になると考える。

6. ま と め

この研修旅行では、出発前に多少の問題点があったが、過去のアンケート結果及び報告書を吟味しながら旅程を検討し立案してきたので、殆どの学生が異国での貴重な体験を満足してくれる結果となった。これは、今後、彼らの大きな糧になると思う。なにより、研修旅行の行程中はずっと天候も良く何事も無く順調に実施でき、全員が無事に帰国できたことが一番の成果である。

最後に、この研修旅行を実施するにあたり多大な協力を頂いた本学の先生方、研修先の調整をして頂いた学園本部の蜂須賀先生には、ここに深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 1) 大塚三雄, 木下勝晴, 林文明, 森光弘, 山崎秀美: 中日本自動車短期大学論叢第34号(2003), 海外研修旅行(イタリア)の報告(第1報) p.103-107
- 2) 大塚三雄, 鈴木敦巳, 林文明, 中川実, 松本美紀: 中日本自動車短期大学論叢第34号(2003), 海外研修旅行(イタリア)の報告(第2報) p.109-113